

みなお通信

高崎市議会議員 高橋美奈雄

<市政相談連絡先>

〒370-0041

高崎市東貝沢町2丁目32-6

TEL&FAX 027-363-2733

E-mail: minao.t@jcom.home.ne.jp

9月市議会定例会報告

平成24年第4回市議会定例会は、9月5日から25日までの21日間の会期で開かれました。本定例会では、平成23年度高崎市一般会計及び特別会計歳入歳出決算認定議案並びに高崎市上・下水道事業会計決算認定議案、請負契約締結について（高崎市立塚沢小学校校舎増改築工事）、高崎市名誉市民の選定同意についてなどの議案の審議を行い、いずれも原案のとおり可決しました。

<平成23年度決算認定関係報告>

一般会計及び国民健康保険事業ほか8特別会計を合算した決算総額は、歳入が2,242億4,199万円、歳出が2,160億9,465万円で、前年度に比べ歳入が10億7,708万円(0.5%)、歳出が25億8,363万円(1.2%)減少しました。

長引くデフレやEU諸国の経済危機、東日本大震災による企業収益や雇用情勢の低迷など依然として厳しい状況が続く中で、本市の財政運営は、支出の抑制に努めるなど健全性の確保に努めたと認めました。

今後も市税の減収が懸念され、歳出においては社会保障関連経費の増加が見込まれることから、事務事業の合理化、多様な市民ニーズの的確な把握による事業選択に努め、これまで以上に効率的な執行に取り組む必要があります。農業者や中小零細企業等への支援、住環境改善助成制度の導入など市民生活を支える事業の成果について詳細に審議し、決算認定しました。

災害に強い地域社会をつくろう！ ～井野川の浸水被害を教訓に～

最近では地球温暖化などの影響で、1時間に50mmあるいは100mmという雨も珍しくなく、川のはん濫や浸水被害をもたらします。東部地域でも7月28日の豪雨により多くの被害が発生しました。洪水災害から犠牲者を出さないためには、自主的な避難行動や地域の助け合いが必要不可欠です。

現在、区長会の協力を得て行政との連携を迅速に行う検討が行われており、洪水ハザードマップや災害情報を活用し、『いざという時』に役立てることができるよう地域の皆様のご協力をお願いいたします。



九月定例会

市政に対する一般質問

一般質問は、四日間にわたり二十八人の議員が行い、高橋みなお議員は、三日目に登壇し質問しました。以下、概要を報告します。

第5次総合計画後期基本計画で本市が目指す将来像について

質問 平成二十年度に『交流と創造く輝く高崎』を将来都市像に掲げ、十年間のまちづくりの理念を定めた第5次総合計画を策定し、今年度は前期基本計画の最終年度である。行政と市民が一体となって施策に取り組んできたと認識しているが、二十五年度からの後期基本計画策定に向けた審議会の進捗状況は。

答弁 6つの政策分野を4つの分科会で審議し、意見や提言をいただいている。今後示される答申の内容を踏まえてまとめていく。
質問 市民の視点に立った評価を目指すため、中核市となった二十三年度を目途に外部評価を導入するということがあったが、どのような状況か。

答弁 毎年、事務事業評価を実施し公表している。的確な分析による評価を行うために施

策評価や外部評価制度についてはさらに検討を進めていく。

質問 大震災のような予測できない事態も含め、今後5年間の具体的な事業計画を決めるのは難しい課題もあるが、市民が安心・安全で元気になるような計画が求められる。変化する社会経済情勢や市民意識に対応するための見直しや修正、災害時の危機管理対策及び中核市としての権限をどのように活かした計画になるのか。

答弁 「地域防災の強化」という施策に詳細に設定している。中核市移行に伴い、福祉サービス向上や保健所に関する事業を位置づけている。

質問 総合計画は、地方自治体において最上位の行政計画であるとともに、まちづくりの指針であり、実行性も求められている。市長が考える『交流と創造』の持続性と方向性は。

答弁 財政の健全性を確保しつつ、大胆でスピード感のある、市民の生活実感を踏まえた市政を進める計画にしていきたい。

学校現場における課題について

質問 平成二十五年四月から3学期制が実施されるが、周知と説明はどのようにしているのか。特に受験生にとつては不安な点もあると察するが対応は。また、地域事業との連

携を密にすることが重要であるが、区長会など地域関係団体等の調整は図られているのか。

答弁 十月には区長会やPTA・育成会等に相談を始めた。受験生にはきめ細かな対応をすすめる。保護者向けのリーフレットを作成し、地域の皆様にも広くお知らせしていく。

質問 学校行事の現状について合併以前の行事が継続され、地域によって統一されていないなど見直しの時期にきているのではないか。

柏崎刈羽原発と至近距離にある現在の臨海学校に不安をもつ保護者もいると聞いている。本市の子どもたちが同じ思い出をつくれる環境を整える必要があるのでは。

答弁 臨海学校のあり方については検討を重ねていく。また、今年度から自然体験活動事業を立ち上げた。どのような力を育てることが子どもたちにとつて必要なのかを明確にし、有意義な体験活動を支援したいと考えている。

後記

最近実施された、都道府県魅力度ランキングのアンケートで群馬県は47位・全国最下位の結果にショックを受けた方も多いのではないでしょう。災害の被害が少ない、交通が便利という住みやすい条件も、産品購入意欲度や観光意欲度の低さにはかなわないようです。

私たちが群馬のイメージアップのため、もっとアピールしなければとリベンジを誓いました！